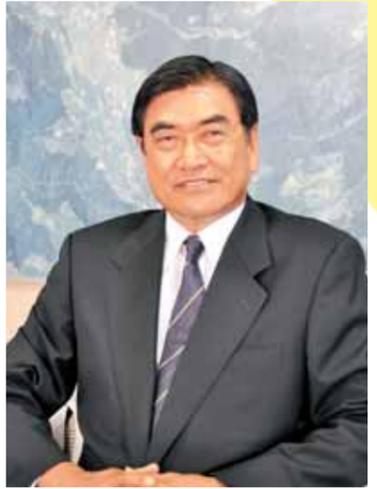


勝山市制施行60周年に寄せて



ごあいさつ

勝山市長
山岸正裕

本年9月1日に勝山市は市制施行60周年を迎えます。この節目の年を迎えられることに市民と共に感謝し、お祝いを申し上げます。

昭和29年9月1日に、旧勝山町を中心とした1町8ヶ村が大同団結して合併し、勝山市が誕生してから60年が経過し、本年還暦を迎えました。

勝山市が誕生した当時は、戦後の混乱期から昭和の高度成長期へ向かう、まさに助走体制に入った時期で、日本全体に将来への夢と希望がみなぎっていました。その後、現在まで日本は世界に冠たる経済大国として成長してきました。

勝山市も繊維産業を基軸として経済的發展をとげ、現在では恐竜博物館、はたや記念館ゆめおれ勝山、白山平泉寺、スキージャム勝山、越前大仏、勝山城博物館などの多くの人を惹きつける施設が存在し、毎年多くの観光客が訪れています。

また、日本有数の恐竜化石発掘地であることから市全域が「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。九頭竜川の清らかな流れ、美しく雄大な加越国境等の山並み、まちなかにホテルが飛び交い、秋には全国的に激減し

ている赤とんぼの大群が空を舞うなど、身近に豊かで貴重な本物の自然があり、世界的な経済誌「フォーブス」において世界で9番目にクリーンなまちとして紹介されました。

また市長就任以来、市民の皆様と一緒に考えて、展開してきました「ふるさとルネッサンスを理念とした「エコミュージアム構想」に基づくまちづくりは、スタートから3年ごとにステップアップしながら13年目を迎え、これまでに北谷の鯖の熟れ鮭や、野向町のエゴマ、荒土町の炭など、コミュニティビジネスとして地域の活力を生み出したものも多く、今後さらさら各地区の特徴を活かした新たな展開と、市民団体による意欲的な取り組みなど、今後の活動が期待されています。持続可能な自治体として必須の要件は次世代の育成です。

勝山市では、全国でも数少ない全小中学校がユネスコ

スクールに加盟をし、ESD教育を実践しており、ふるさと勝山への愛着と誇りが醸成されてきています。

また、英語教育強化拠点地域として全国18地域のうちの1つに勝山中部中学校とその校下の小学校が指定されました。

このように、次世代の子どもたちに美しく魅力あふれる勝山を遺すべく、また、誰もが住みたくなるまちを目指し「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を合言葉に市民の皆様とまい進してまいります。

私も勝山市と同じ誕生日!

織田 佐和子さん
11郡町1丁目11

勝山は私にとっての第2の故郷、大好きなまちです。ゆつたりとした自然と、地道にがんばるかたに囲まれ、あまり物があふれていないところも好きです。

自分がいつの間にか還暦。しかも勝山市と同じ誕生日であることに驚きましたが、また光栄に思います。

これからも一緒に素敵に歳を重ねられたら嬉しいです。

私も勝山市と同じ誕生日!

昭和29年9月1日

山内 真さん
=毛屋町=



誕生日の思い出として、子どもの頃は余り嬉しくなかったのを覚えています。

というのは、自分の誕生日は、楽しかった夏休みが終わった初日という気持ちから、1年で最も嫌な日だったからです。

その後、誕生日が偶然にも市制施行日である事を知ってからは、とても光栄に思っています。

私は、毎年夏になると九頭竜川へ鮎釣りに出掛けるのを楽しみにしており、勝山市が20年後も30年後もずっと、九頭竜川を始め、自然豊かなまちであってほしいと願っています。



お祝いの言葉

勝山市議会議長

倉田 源右工門

記念すべき、市制60周年を迎えましたことを、市民の皆さまとともに祝福し、喜びを分かち合いたいと思います。

昭和29年9月1日に1町8ヶ村が合併し、福井県下で6番目の市として勝山市が誕生してから、早や60年の歳月が流れました。

この間、社会基盤の整備、市民福祉の充実、教育文化の振興、産業経済の発展等大きく躍進を遂げてまいりました。

この着実な歩みは、その時代の厳しい社会情勢や経済環境の中で、豊かな郷土づくりに邁進され、ご尽力いただいた先輩の方々や市民のみなさま方のご努力の結果であり、改めて、心より敬意と感謝を申し上げます。

市議会といたしましても厳

しい社会情勢の中で、行政と一体となって難局を切り抜けるため活発な活動を展開してまいりました。

社会を取り巻く情勢は大きく変わってきております。人口減少や少子高齢化への対応循環型社会の構築と自然との共生、高度情報化の進展など社会環境の変化が、生活に大きな影響を与えております。

このようなかにあつて、「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を目指すべきまちの姿に掲げ、エコミュージアムの推進を基本政策の軸に据えて、市民のみなさまが主役となった、持続可能なコミュニティづくり、特色ある地域づくりとあわせて、環境、福祉、産業、教育など幅広い分野の政策を推進することにより、多様な価値観の魅力にあふれた「選択されるふるさと」、「誰かが住みたくなるまち」の実現を目指しています。

議会といたしましても、これらの施策に全力で取り組んでまいり所存であります。市民のみなさまの、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



東京勝山会会長
山内 高嘉氏

市制施行60周年おめでとうございます。

私が先ず思い出されることは、市制記念支所訪問駅伝に出場したことです。北谷の北六呂師から野向町の薬師神谷大橋までが自分の区間でした。当時は16歳で勝山高校の1年生でした。たすきの中継点では、薬師神谷地区の皆さんが大勢で応援していただいたことを、大変懐かしく思い出しました。

その2年後、18歳の春に卒業と同時に東京へ。あれから今年で58年目を迎えましたが、「少年老い易く学成り難し」とは誠にそのとおりで感じています。自分が何とか曲がりなりに今日まで来れたのは、ふるさと勝山とご先祖のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがたいことだと思います。

また、東京勝山会も昨年一足早く60周年記念総会を11月11日に行い、山岸市長にもご出席ただいて盛大に祝うことができました。本年は10月18日正午より61回目の総会を開きますので、多くの方にぜひ参加いただけるようよろしく申し上げます。(会場は銀座ライオン6階クラシックホール)

結びになりますが、ふるさと勝山が益々ご発展されますようご祈念申し上げます。



関西勝山会会長
近藤 義親氏

市制施行60周年おめでとうございます。私は北郷町の出身で、我が家の玄関を出ると「鷲ヶ岳」が迫ってくる。この山が私に多大な精神的忍耐力を育ててくれました。

私は読売新聞社に入社。働きながら大学に通い、卒業後は県の販売担当員として地元紙や全国紙と熾烈な“増紙”戦を展開し、松竹芸能社等とイベントを積極的に企画し部数を大きく伸ばすことができました。

いまの勝山には、恐竜博物館、越前大仏、勝山城博物館、ゆめおれ勝山などがあり、施設は相当整備されています。私は、これからの勝山はもっと観光に力を注ぐべきだと感じました。それには先ず「宣伝力」と積極性が第一です。例えば、福井県が開発した「コシヒカリ」、福井県が提唱した「ふるさと納税」の特典などに、工夫が欲しいものです。

「ふるさと納税」は毎年行っていますが、今年は地元の要望に応え、鷲ヶ岳に桜の樹を植えてもらい、将来老若男女の親睦の場になればと思います。

最後に、第88回関西勝山会総会には山岸市長を迎えて、初の「勝山物産展」を開催し、勝山市をアピールする予定です。

勝山市民の皆様の益々のご健勝を祈念いたします。